

文教厚生常任委員会

本町の老人保健財政状況は 県内でも高い位置付け

町一般会計補正予算（第三号）の関係分

問 児童福祉総務費関係で、次世代育成支援対策事業の行動計画を、宮之城町・鶴田町・薩摩町との合同で策定することだが、予算措置はどうか。また、現在の子どもの出生数は、三町で何人ぐらいか。

答 予算措置については、本町は当初予算で一八九万円を計上している。鶴田町・薩摩町についても、それぞれ当初予算で計上しており、宮之城町の一般会計に負担金として繰り入れることになる。

出生数については、本町は年間一三〇〇〜一五〇人で推移している。薩摩町・鶴田町にあつては、年間二〇人前後で、少子化傾向にある。

問 生涯学習推進費のなかの家庭教育学級推進事業の廃止に伴い、予算計上してあるなかの、どの部分を削ることになるのか。

答 船木保育所に子育て支援センターを設置しているが、そこで活動を共にしていた子育てサポーターを五人から四人にし、年間謝金も減額したい。

問 図書購入費一五〇万円については、日本特殊陶業株からの寄附金を充て、日特文庫を設置するということだが、どのような計画なのか。

答 日特文庫として書棚を設け、かねて購入できない高価な、調べ学習に必要な図鑑等のセット物を整備していきたい。

町老人保健医療特別会計
補正予算（第一号）

問 健康づくり事業等の施策の取り組み状況は。

答 昨年一年間で、医療費については、一・〇一割の増となったが、保健師と連携を取りながら、地域に向き、医療費の実態を示しながら、今の元気を維持してもらおうような声かけ運動を展開している。

問 合併を控え、本町及び鶴田町・薩摩町の老人保健財政の収支状況は。

答 一人当たりの医療費は高く、なかでも本町の医療費は、鶴田・薩摩より高い状況にある。今後、これが国保会計、あるいは町の負担分に影響していくことが懸念される。

町介護保険事業特別会計
補正予算（第一号）

問 介護認定調査業務を、町職員五人態勢で対処することであるが、具体的な内容は。

答 認定調査業務について、本町は調査員三人と事務職員を一人、そして、鶴田町の業務についても、本町と一緒にという要望もあり、鶴田町の職員一人が出向という形で五人の事務態勢をとりたい。薩摩町についても現在、協議を進めているところである。